Mutsumi
睦眉会会報

vol.18

発行者
徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会
徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509
徳島大学医学部保健学科内
TEL/FAX：088-633-9067
E-mail：mutsumi.jim@gmail.com
発行責任者　橋本公子

保健学科の近況

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長
雄西智恵美

睦眉会の皆様、日ごろより本学の教育研究活動についてご理解ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。とりわけ今年度は、本学の中期目標のひとつである「グローバルな医療人の育成」の具現化に向けた国際交流活動の推進にご賛同頂き、ご寄付を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。今年度も、国際交流協定を締結している４つの大学とは交流を継続発展させており、８月にはメトロポリア応用科学大学（フィンランド）においてアジア・プログラムセミナーが開催され、教員３名と学生５名が参加し、2019年３月には徳島でセミナーが開催される予定です。また、８月にはロクシン先生主催の第２回国際セミナー・ワークショップが徳島で開催され、海外から100名近くの参加者を得て盛況な会となりました。更に、３月にはセントポール大学フィリピンにおける英語プログラムの実施を計画しており、今後も国際的視野を育む教育環境の整備を進めていきたいと考えています。

国際交流基金への寄付金贈呈

一方、大学改革の更なる推進が求められ、大学の自主的・自律的な運営により教育・研究の水準を高めていくことがますます求められるようになっています。この流れのなかで、保健学科/保健科学教育部では、３学部５教育部の複合的教育環境である蔵本キャンパスの利点を活用し、学部―大学院の一貫した教育体制のなかで、ヒューマンケアリングを中核とした看護実践者、医用理工学分野と放射線科学分野の融合を基盤とした診療放射線技師、そして積極的に診断に関わることができる臨床検査技師の育成を目指して学部教育の強化を図っています。また、大学院では専門看護師や医学物理士などのプロフェッショナルやグローバルに活動できる教育研究者の育成を将来構想として、その実現に向けて取り組みを始めています。平成29年度の国家試験の合格率は、看護師98.5%、保健師94.0%、助産師100%、診療放射線技師82.9%、および臨床検査技師100%であり、今後はすべて100%を達成して、その先の目標に向かえるようキャリア形成支援も重点化していく予定です。

教育研究費や人件費の削減などにより教育現場は厳しい状況ですが、教職員一同最善を尽くす所存です。同窓会の皆様には、これからも保健学科の将来を見守って頂き、引き続きご支援頂きますようお願いします。

会長就任のご挨拶

徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属助産婦学校10期生
橋本　公子

睦眉会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成30年度の睦眉会総会において、河田明男前会長の後任として会長を拝命致しました橋本公子でございます。就任に当りご挨拶申し上げます。

私は、徳島大学医学部附属助産婦学校を昭和42年に卒業し、徳島大学病院を退職後にウェルネス橋本助産所を開業し現在に至っている助産師です。

会長の任は突然であり、これまで地域において母子の支援と助産師職能の向上を目指して活動していた私には戸惑いがありました。

そこで、改めて同窓会のこれまでの歩みを紐解き、同窓会役員の皆様から情報を収集し、今後、母校がどのような発展を目指し、同窓会がどのように寄与しなければならないかについて見識を深めることに致しました。

専門学校から短大そして大学という高等教育機関として発展し、さらに大学院博士前期・後期課程と、教育課程が完成するに至った過程には、多くの諸先生方のご苦労の賜である ことは明白です。さらに発展を続けていく我々の母校の今後の目標は、グローバルな医療人の育成、地域医療に貢献できる高度専門職医療人と国際的に活躍できる教育・研究者の育成につなげることと明言されています。

徳島大学の同窓生の中には、日本あるいは世界各地で、専門性を大いに発揮し活躍されておられる方が沢山いることを知りました。同窓生が、情報を発信・共有し、連携を深めることで、在校生のキャリア形成支援やOB・OGのキャリア開発などに貢献できるのではないかと思います。会長として、情報をキャッチし発信していきたいと思っております。また、徳島大学は、来年、創立70周年を迎えます。国立大学法人の抱える課題の解決に向けて、本同窓会がどのように貢献できるのかも検討していきたいと考えております。

睦眉会の目的である会員相互の親睦、母校の発展、保健医療の向上に寄与するために、皆様からのご意見やご助言をいただきながら役割を果たしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

同窓生通信

我が看護師人生に乾杯！

徳島大学医学部附属看護学校29期生
徳島大学病院
鈴木　察子

同窓生の皆様お元気でしょうか？私は、昭和55年に看護学校を卒業し、徳島大学医学部附属病院へ就職しました。就職当時を振り返ってみますと、最初に配属されたのは第2外科病棟でした。大変忙しい中でも看護師間や先生方とのコミュニケーションが良く、とても楽しかったことを覚えています。

結婚後は、3人の子供を授かり、産休明けで出勤するたび、部署も替わりました。3人目の子供が生まれた後は、手術室の配属となり、その後11年という長期間手術室で勤務しました。手術室の業務は、今まで病棟で積み上げてきたものとは全く異なる知識や技術が要求され、時には落ち込みましたが、同じ時期に配属になった友人や気の合う同僚と慰め合って何とか乗り越えてきました。手術という命をかけた患者さんの人生の大イベントが滞りなく終了できるよう、手術創以外に傷を付けないように守ることを常に意識して看護していました。

その後、2年間の外来勤務を経験し、安全管理対策室のゼネラルリスクマネージャーとして、5年間勤務しました。当時は、平成11年1月11日に起こった患者取り違え事件をきっかけに、病院の安全管理が急速に整備されつつある状況でした。「人は誰でも間違える」（To err is human）という考えから、間違っても重大な結果に繋がらない仕組みや工夫が、医療器具においても考えられるようになりました。平成12年以降、医療事故は起こりうることという考えに変わり、チームや組織全体のあり方を改善しなければ事故は防止できないという考え方に変わりました。インシデント事例を分析して、大きな事故に繋がらないよう対策を立て、その対策が職員に周知され実行できるように、マニュアルの作成や院内ラウンドを行っていたことが懐かしく思い出されます。

平成27年からは、副看護部長を拝命し、病床管理センターを立ち上げ、患者さんの入退院がスムーズに行えるよう、また、病院の経営的な視点から病床管理が行えるように努めました。1つの大きな目標を達成するためには、29の小さな目標を達成し、さらに300の習慣や日常の規律を積み重ねることが重要であるという逆ハインリッヒの法則を頭に置きながら、日々の業務を大切に実施してきました。退職まであと数ヶ月ですが、今自分にできることを精一杯行っていきたいと思います。38年間色々な部署で出会い、支援頂いた皆様に感謝します。

東洋医学を学んで、今、思うこと

徳島大学医学部附属助産婦学校21期生
川西　節子

「５…４…３…２…１…ブ――」、口頭試問のカウントダウン。①股関節を外転する筋肉５個②その支配神経は？③…。５問完璧に答えられるまで何度も挑戦しなければならない。平成27年に大学病院を退職し、入学した東洋医学の学びのワンシーンです。

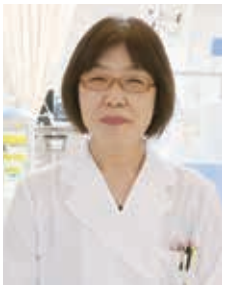
私は助産婦学校卒業後、大学病院で35年間勤務しました。部署は分娩部に始まり、小児科病棟、集学治療病棟、NICU、脳外科病棟、産婦人科外来、周産母子センターと多岐に渡りました。印象深いのは、集学治療病棟の立ち上げ、初めて看護師長として勤務した脳外科病棟、そして、周産母子センターで院内助産システム「ひなた」の立ち上げに関わらせて頂いたことです。大変でしたが、思い返せばとても充実した、成果を伴う仕事でした。どの場面においても他職種によるチームメンバーの皆様、看護部の皆様、保健学科の先生方、そして共にがんばったスタッフ達を忘れることはありません。専門職として充実した人生を送らせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

退職後すぐに、以前より興味のあった東洋医学を学ぶために、四国医療専門学校の鍼灸マッサージ学科に入学。年齢を考えると無謀なチャレンジでした。必要とされるのは、記憶力。通常の解剖学に加えて、筋肉とその支配神経200個、東洋医学では経穴360個。脳が震えるほど勉強しました。実技、患者さんへの施術等、怒濤の３年間でしたが、無事に鍼灸師、マッサージ師の国家資格を取得することができました。また、多くの先生方、高名な治療家、そして様々な職種のクラスメイトとの出会いがあり、新鮮で刺激的な学生生活でした。

現在、鍼灸は伝統医療としてWHOで認定され、各国で研究が行われ、国際標準化が進められています。「西洋医学も東洋医学も診ているのは同じ身体、人。多様性を持って患者さんのニーズに対応することが大切。一番重要なことは、専門職として自分が施術していいのか鑑別できることだ。」尊敬する鍼灸の先生の言葉です。助産師として東洋医学というアイテムを手にいれ、今後は、地域で女性のライフサイクル全般に関わった活動を夢見ています。末尾ではありますが、先輩、後輩の皆様のご健康とご活躍、そして睦眉会の益々のご発展をお祈りしています。

もうしばらく頑張ります

徳島大学医学部附属臨床検査技師学校4期生
徳島大学病院
岸　美佐子



私は38年間勤務した徳島大学病院を１年半前に定年退職し、現在は再雇用勤務で引き続きお世話になっております。

入職当初は検体検査業務を担当していましたが、中央採血室が看護部から検査部に移管される際に運営管理を任されました。それまでは、医療従事者といっても患者さんと直接接する機会はなく、病院の他部署の方との共同作業も初めてでとまどいや苦労も多かったのですが、神の手・知恵そして勇気を持つ先輩看護師さんに助けられ、何とか無事に毎日を過ごすことができました。患者さんに向き合う看護師さんの姿勢から学ぶことも多く、ちょうど検査結果を保証するため採血方法の標準化が進められた時期でもあり、色々と勉強することができ良い経験となりました。現在採血業務を担当されている方も、苦手意識を捨て頑張ってほしいと思います。

その後、検査部が臨床検査に特化した国際規格であるISO15189認定を取得することになり、準備段階から深く関わることになりました。マネジメントシステムだけでなく技術面での精確性も求められます。実際に技能試験もあり、認定取得・維持にはかなりの労力を必要としますが、認定取得により自信をもって良質な検査結果を提供できるようになります。診療報酬で検体検査管理加算に加点が認められ、病院としても増収が図られるようになり、少しは苦労も報われたように思います。

昨今の医療を取り巻く環境は厳しく、臨床検査技師もチーム医療の場で臨床検査の専門家として検査実施のみでなく、臨床検査のすべての過程（実施前の説明・採血など検体採取・検査実施・結果報告・検査結果の説明）において職務を果たすことが求められています。最近では、認知症領域や在宅医療、予防医学の面でも臨床検査技師が活躍することも期待されています。活躍の場はたくさん準備されています。検査技師ではなく医療人として充実した毎日を過ごせますよう、後輩の皆様方にエールを送りたいと思います。

社会活動（研究と教育）がつなぐ同胞の絆

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校17期生
奈良県立医科大学附属病院
中前　光弘

早いもので卒業して30年が過ぎた。大学病院では、一般的にその特殊性をかんがみて、診療業務の他にも医学教育機関として「教育」「研究」の機能を発揮させる必要がある。しかし、我々コメディカルの職種では、ほとんどの職場でこれらを業務として認められていない。そのため、休日を利用して、社会活動の一環として地域の研究会・勉強会に参加している。

例えば、「関西地区CR（Computed Radiography）研究会」という勉強会がある。これは、放射線技師の卒後教育を目的に単純X線撮影における画像処理の基礎や最新技術を紹介する会である。平成10年に幹事として参加し、平成24年からは代表幹事として研究会の企画運営などのマネージメントもしている。近畿には放射線技師の養成校が６校もあり、近圏の徳島、岡山、三重、愛知などの養成校からの卒業生も数多く就職している。そのため、非常に勉強熱心な地域で、週末にはいろいろな勉強会が催されている。

関西地区CR研究会では、年３回の定例会と超基礎講座などの特別講演を開催している。参加してくれる多くの放射線技師の中に、徳島大学の先輩や後輩（同胞）の姿を見つけると何だか安心する。徳島や岡山、鳥取と遠方から足を運んで、声をかけてくれる同胞もいる。熱心に勉強して、職場で患者さんに還元してくれていると思えば、本当にやりがいのある活動である。

退職まで10年を切ったが、残された時間で、「同胞との絆を深める」この活動を後輩たちに継承して行きたい。

研究会でのパネルディスカッションの様子（右端が筆者）

活躍する卒業生

徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。

徳島大学医学部附属看護学校　昭和62年卒業
香川大学医学部看護学科　教授

市原　多香子
いちはら　　た　か　こ

略歴

昭和62年　京都大学医学部附属病院　看護師
平成５年　佛教大学社会学部社会福祉学科（通信教育課程）卒業
平成７年　徳島大学医療技術短期大学部看護学科　助手
平成10年　徳島大学大学院人間・自然環境研究科人間環境専攻修士課程修了
平成13年　徳島大学医学部保健学科看護学専攻　講師
平成16年　広島大学大学院医学系研究科博士課程修了
平成21年　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　准教授
平成28年　香川大学医学部看護学科　教授（現職）

徳島大学医学部附属看護学校（36期生）をご卒業後、京都大学医学部附属病院において、外科病棟・内科病棟の看護師として勤務されました。卒業と同時に通信教育課程のある大学に進学し、さらに大学院博士課程を修了するまで、看護の仕事と学業を両立する生活を続けられました。看護教員として21年間、短期大学から大学に移行する期間を含み、母校における看護師養成に熱心に従事されていました。

平成28年には、香川大学医学部看護学科教授に就任され、成人看護学領域の学部教育および大学院教育等に邁進されています。研究では、現場の看護師が臨床で困ったこと、なぜそのようなケアを行うか等、看護現象を可視化することに熱心に取り組まれています。また社会活動として、健康増進のための調査研究や、看護師主催の研究会への協力・支援などを通して、看護職の看護実践能力の向上のため精力的に取り組まれています。

徳島大学医学部附属助産婦学校　昭和47年卒業
元徳島大学病院看護師長
徳島県助産師会規約検討委員

佐野　寿代
さ　の　　ひさよ

昭和47年に徳島大学医学部附属助産婦学校（15期生）をご卒業後、徳島大学病院に助産師として就職されました。助産師として数多くの母子の命を守り、後輩の育成にも尽力されました。また、産婦人科外来では看護師長として、胎児エコーを活用した妊婦の健康診査や保健指導など助産師外来の充実と、乳房ケアや授乳指導、育児相談などの産後ケアにも取り組んで来られました。さらに、助産と医療経済にも目を向け、母乳外来の料金化をはかられました。

徳島大学病院を定年退職後は、阿波市や石井町などをフィールドに、地域で暮らす母子の家庭訪問を通して、すこやかな子育てを支援されています。また、徳島県からの委託事業である「産前・産後の母親相談事業」では、西部地区のリーダーとしてご活躍中です。さらに、イオンリテール委託事業「助産師による個別相談会」など、徳島県助産師会で行われる多くの事業に精力的に取り組んでおられます。

このような長年のご功績が評価され、平成30年２月には、第46回医療功労賞の県表彰を受賞されました。助産師のロールモデルとして、「すべての子どもが健やかに育つ社会にむかって（健やか親子21第２次）」生涯現役で活動し続けてくださることと思われます。

第12回睦眉会主催講演会に参加して

徳島大学睦眉会副会長
徳島大学医学部附属助産婦学校33期生
徳島大学病院
森内　洋美

梅雨の晴れ間の青空がひときわ鮮やかな７月１日、徳島大学病院日亜メディカルホールにおいて、「認知症の方と家族を地域でどう支えていくか」と題して、公益社団法人認知症の人と家族の会徳島県支部代表・社会福祉士である大下直樹先生による講演会が開催されました。

認知症とは、三宅貴夫氏によると「いったん獲得した知的機能が、脳の器質的障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活が営めなくなっている状態」とあります。将来、誰しも高齢者となることを考えると、決して目を背けては通れないことであると共に、自分だけでなく、家族、友人などにも起こるかもしれない身近なこととして捉えることが必要であると分かりました。

厚生労働省の調査によると、団塊世代が後期高齢者となる2025年には、認知症高齢者が700万人（５人に１人）と推計されているそうです。その中には、独居高齢者が約3分の1含まれるなど、病院や施設だけでは抱えきれないことが予測され、地域で支えあうことが一層大切であると共に、国を挙げての取り組みが急務であることが分かりました。

まずは、高齢者次世代の私たちも『①食習慣を見直し、②運動の習慣を持ち、③対人と接触する機会や知的好奇心を持つよう心がけ』、認知症を予防していきたいと思います。

退任に際して

前徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属診療放射線技師学校3期生
河田　明男

猛暑が過ぎ、やっと秋めいて来ました。去る７月１日の総会で会長職を辞しました。2004年11月に会長を拝命し14年の永きに亘り御指導、御協力を賜り厚く感謝申し上げます。特筆すべきは徳島大学同窓会連合会が黒田理事の主宰の下に発足した事です。2010年には青野敏博学長退任記念祝賀会、2012年青野敏博氏瑞宝重光章記念祝賀会に出席いたしました。また、2005年医療技術短期大学部閉学記念式典・祝賀会、2009年徳島大学創立60周年記念式典・祝賀会、2014年多田敏子保健学科長を囲む会にも出席させて頂きました。

毎年春には、徳島大学卒業式・入学式や保健学科卒業謝恩会、徳島大学医学部各賞授与式、新入生歓迎昼食会への出席が会長の責務でした。更に隔年で、東京の「関東びざん会」、大阪での「近畿びざん会」にも出席いたしました。これら全てのイベントでは、普段決して会う事の無い方々と親しく接する事で得難い経験を重ねる事が叶いました。

この14年の経験を宝として、これからは「睦眉会」を陰から見守りたいと存じます。有難うございました。

研究室紹介

音楽による不快感情調整の神経科学的メカニズムの研究

徳島大学大学院医歯薬学研究部　放射線科学系　放射線理工学分野　准教授　**河野　理**

ストレスの多い現代社会において、音楽療法の有用性が注目されており、その基本原理に、「同質の原理」があります。これは、アメリカの精神科医Ｉ．アルトシューラーによって提唱されたもので、患者の気分やテンポに合った音楽を聴かせることで（落ち込んだ時は暗い曲、興奮している時は明るい曲など・・・）、精神的に良い方向へ向かわせることができるという概念です。しかしながら、そのメカニズムはよくわかっていません。

本研究では、音楽療法による精神疾患への医療的介入を科学的に可能にする基礎を築くため、「被験者の不快感情生成時に、音楽を聴取させることによって、不快感情を緩和させるメカニズムを神経科学的観点から明らかにすること」を目的とします。その目的を達成するために、ＭＲＩ撮像中に、情動刺激画像を呈示することによって、被験者の感情状態を意図的に制御し、様々な感情状態下で、音楽聴取時の脳機能計測を行うという課題を考案しました。脳機能計測データの統計的画像解析を行ったところ、音楽聴取中において、初期的気分状態が中性の場合と比較して快の場合は右の扁桃体、左の海馬、右の尾状核での賦活が見出され、不快の場合は右の扁桃体と右の海馬の賦活が見出されました（図２）。さらに、初期的気分状態が快の場合は、癒し音楽聴取時と比較して、興奮音楽聴取時の方が右側の扁桃体で、不快の場合は、右側の尾状核で有意に賦活がありました。これらの結果は、神経科学的観点から、被験者の初期的気分状態と脳活動の関係を明らかにしたものであり、初期的気分状態の違いによって、音楽聴取時の脳機能賦活状態に相違が見出されたことは、音楽療法の基本原理である「同質の原理」の機構の一端 をサポートしており、音楽療法の科学的基礎を築くための重要な結果であると考えています。

図1　MRIを用いた実験風景

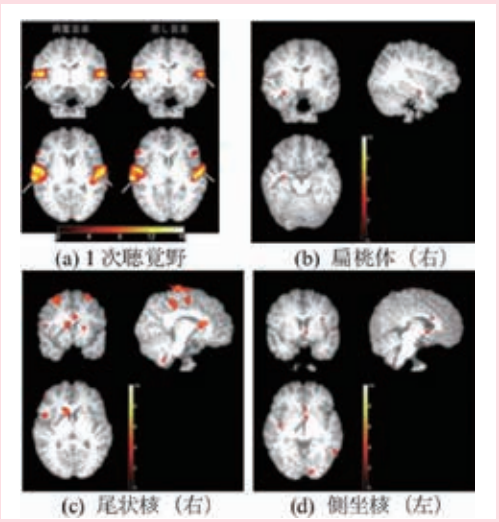


図2　音楽聴取時の脳機能マッピング画像

「2nd Technological Competency as Caring in the Health Sciences 2018」の報告

徳島大学大学院医歯薬学研究部
保健学域保健科学部門　看護学系
安原由子、飯藤大和、近藤和也、谷岡哲也

徳島大学大学院医歯薬学研究部保健科学部門国際交流委員会は、ロクシン・ケアリング研究所との共催で、ケアリング理論の第一人者である、ロザーノ・ロクシン教授による第２回国際セミナー・ワークショップを平成30年８月17日（金）～８月19日（日）に開催いたしました。

ウェルカムレセプション＆ウェルカムディナーはホテルサンルート徳島、ワークショップは徳島大学蔵本キャンパスの藤井節郎記念医科学センターと日亜メディカルホールで行いました。

ウェルカムレセプションには、国内外から80名の方々が参加されました。野地澄晴学長、丹黒章医学部長、雄西智恵美保健科学教育部長の挨拶の後、**Opening Plenary Presentation**として、Rudolf Cymorr Kirby Martinez博士が講演を行いました。

希望する海外の参加者は、本セミナーの協賛病院からお借りした浴衣を着用し、日本文化を体験しました。記念撮影をしたり、阿波踊りを一緒に踊ることで、より一層交流を深めることができました。

２日目は、８月18日（土）９時より藤井節郎記念医科学センターで開催しました。野地学長もご参加くださいました。**Keynote presentation**は、Michael Joseph S. Diño博士、また**Plenary presentation 1**では、保健科学教育部のHideki Otsuka博士、**Plenary presentation 2**では、同じく保健科学教育部のTetsuya Tanioka博士が講演を行いました。

午後は日亜メディカルホールに場所を移し、**Luncheon**

ロザーノ・ロクシン教授

Plenary presentationでは、フィリピン大学のSheila Bonito博士が講演を行いました。その後、3会場に分かれて実施した45題の**Oral Presentation**では、活発な意見交換がされました。

３日目の８月19日（日）は、9時より同会場で34題の**Poster Presentation**、その後ロクシン教授によるセミナーとワークショップが開催され、活発な議論が交わされました。看護管理学分野と看護技術学分野で運営した、本国際セミナー・ワークショップは、国内外から合計約150名の方々にご参加いただき成功裏に会を終えることができました。沢山のボランティアの教員、大学院生、学部学生の皆様にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

平成30年度　徳島大学睦眉会総会報告

平成30年７月１日(日)
日亜メディカルホール(徳島大学病院　西病棟　11階)

【日　程】

１. 平成30年度睦眉会総会　　　　13:00 ～ 13:30
２. 第12回睦眉会主催講演会　　　　13:30 ～ 15:00
　　演題　「認知症の方と家族を地域でどう支えていくか」
　　講師　大下　直樹　先生　（社会福祉士）
　　　　　(公益社団法人「認知症の人と家族の会」徳島県支部代表)
※参加者は、47名(会員42名、一般４名、学生１名)でした。

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
   (1)平成29年度事業報告
   (2)役員会報告
   (3)平成29年度会計報告
   (4)会計監査報告
4. 議案審議
   (1)平成30年度事業計画案、予算案について
   (2)会則改正案について
   (3)役員改選案について
5. その他
6. 閉会

平成29年度 事業報告

1. 入学式出席(会長) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年４月６日
2. 睦眉会主催　新入生歓迎昼食会の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年４月６日
3. 徳島大学同窓会連合会　ニュースレター(活躍する卒業生)掲載 ・・・・ 平成29年4月、9月
4. 総会の開催(役員会で総会に代える) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年７月10日
　　(参加者　役員22名)
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長　他3名)・・・・ 平成29年10月12日
6. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会(大阪)」への出席(会長) ・・ 平成29年11月12日
7. 睦眉会会報(第17号)の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年12月15日
8. 卒業式･医学部各賞授与式出席(会長他)・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年３月23日
9. 卒業･修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年３月23日

役員会報告

1．役員会開催状況（平成29年4月～30年7月）

年度	回数	開　催　日	場　所	参加人数
H. 29	1回	平成 29 年 4 月 24 日（月）	医学部第二会議室	26 名
	2回	総会開催（役員会） 平成 29 年 7 月 10 日（月）	医学部第二会議室	22 名
	3回	平成 30 年 2 月 8 日（木）	医学部第二会議室	14 名
H. 30	1回	平成 30 年 4 月 2 日（月）	医学部第二会議室	18 名
	2回	平成 30 年 5 月 17 日（木）	医学部第二会議室	17 名
	3回	平成 30 年 6 月 14 日（木）	医学部第二会議室	23 名
		総会開催 平成 30 年 7 月 1 日（日）	日亜メディカルホール （徳島大学病院内）	42 名

2. 各種委員会開催状況

委員会名		開　催　日	場　所	参加人数
会報委員会	1回	平成 29 年 8 月 29 日（火）	医学部第五会議室	10 名
	2回	平成 29 年 10 月 3 日（火）	医学部第二会議室	7 名
	3回	平成 29 年 10 月 31 日（火）	医学部第二会議室	10 名
	4回	平成 29 年 11 月 14 日（火）	睦眉会事務局	5 名
学術・名簿委員会		平成 30 年 3 月 13 日（火）	睦眉会事務局	7 名
総務・渉外委員会		平成 30 年 6 月 6 日（水）	医学部第二会議室	8 名
ホームページ委員会		随時		3 名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

1）睦眉会総会・講演会について
2）睦眉会役員改選について
3）同窓会会員名簿発行について
4）睦眉会会報の発行について
5）睦眉会役員の委員会活動について
6）徳島大学同窓会連合会への協力について
7）ホームページの運用について
8）新入生歓迎昼食会開催について
9）卒業・修了記念品について
10）保健学科/大学院保健科学教育部　国際交流基金への協力について

平成29年度　睦眉会会計報告

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

【収入の部】

項　目	金　額
本部会費（144 名分）	2,880,000
貯金利子	18
寄付金	70,676
繰越金	4,246,649
収入合計	**7,197,343**

【支出の部】

項　目	金　額
総会費用	29,604
印刷費・送料（会報代を含む）	1,113,486
会議費	279,764
慶弔費（入学・卒業記念品 , 退職教員記念品代を含む）	628,482
備品費（パソコン関係費用）	749,542
会報委員会活動費用	57,092
事務局運営費	200,000
雑費	4,536
予備費	4,134,837
支出合計	**7,197,343**

【収支決算の部】

総収入額	総支出額	次年度繰越額
7,197,343	**3,062,506**	**4,134,837**

平成30年3月31日　　会計　竹林　桂子

会計監査報告

平成29年度の会計報告書を監査いたしました。
会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。　　平成30年6月14日　　監事　中道　玲子
吉田知位子

＊　以上の報告事項は、すべて承認されました。

平成30年度　睦眉会予算

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

【収入の部】

項　目	金　額
本部会費（142名分）	2,840,000
貯金利子	200
前年度繰越金	4,134,837
収入合計	**6,975,037**

【支出の部】

項　目	金　額
総会・講演会費用	200,000
印刷費・送料（会報代を含む）	1,500,000
会議費	400,000
慶弔費（入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む）	700,000
保健学科 / 保健科学教育部の国際交流基金への寄付金	140,000
会報委員会活動費用	70,000
事務局運営費	200,000
雑費	50,000
予備費	3,715,037
支出合計	**6,975,037**

＊　予算案は、提案通り可決されました。

平成30年度　事業計画

1. 保健学科/大学院保健科学教育部　国際交流基金への協力
2. 新入生歓迎昼食会の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年４月６日
3. 徳島大学同窓会連合会　ニュースレター（活躍する卒業生）掲載・・・・・・・・・・・・ 平成30年４月、９月
4. 平成30年度総会・第12回講演会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年７月１日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席（会長　他）・・・・・・・・・・・・ 平成30年10月11日
6. 徳島大学同窓会連合会交流会「関東びざん会」への出席（会長　他）・・・・・・・・・・ 平成30年12月２日
7. 睦眉会会報の発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年12月頃の予定
8. 卒業式・医学部各賞授与式出席（会長　他）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成31年３月22日
9. 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成31年３月22日

＊　事業計画案は、提案通り可決されました。

徳島大学睦眉会会則　改正

（改正箇所は朱書き部分）

第1章　名　称

第１条　本会は、徳島大学睦眉会と称し、事務局を徳島大学医学部保健学科内に置く。

第2章　目　的

第２条　本会は、会員相互の親睦及び母校の発展を図り、もって、保健医療の向上に寄与することを目的とする。

第3章　事　業

第３条　本会は、次の各号に掲げる事業を行う。
一　母校との連絡及び母校の振興に関すること。
二　会誌及び会員名簿の発行
三　会員の親睦及び互助に関すること。
四　その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4章　会　員

第４条　本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。
2　正会員は、次の各号に掲げる者とする。
一　徳島大学大学院保健科学教育部修了生
二　徳島大学助産学専攻科修了生
三　徳島大学医学部保健学科卒業生
四　徳島大学医療技術短期大学部卒業生
五　徳島大学医療技術短期大学部専攻科修了生
六　徳島大学医学部附属看護学校卒業生
七　徳島大学医学部厚生女学部卒業生
八　徳島医科大学厚生女学部卒業生
九　徳島医科大学附属病院看護婦養成所卒業生
十　徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十一　徳島県立徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十二　徳島大学医学部附属診療放射線技師学校卒業生
十三　徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校卒業生
十四　徳島大学医学部附属臨床検査技師学校卒業生
十五　徳島大学医学部附属衛生検査技師学校卒業生
十六　徳島大学医学部附属助産婦学校卒業生
十七　第一号から第十六号に掲げる学校又は養成所に在学していた者で役員会が推薦した者
3　準会員は、次の各号に掲げる者とする。
一　徳島大学医学部保健学科在学生
二　徳島大学大学院保健科学教育部在学生
4　特別会員は、徳島大学大学院医歯薬学研究部保健学域の教員、及び第2項各号に掲げる学校又は養成所の旧教員、その他、旧職員のうち役員会が推薦した者とする。

第5章　役　員

第５条　本会に、次の役員を置く。

名誉会長	1　名
会　長	1　名
副 会 長	4　名
理　事	若干名
監　事	2　名

第６条　役員の任務は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　会長は、本会を代表し、会務を総理する。
二　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その任務を代行する。
三　理事は、会員を代表し、会務を審議し、決定する。
四　監事は、事務の管理執行を監査する。
第７条　役員の選出は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　名誉会長は、徳島大学医学部保健学科長の職にある者をもって充てる。
二　会長、副会長、理事及び監事は、役員または正会員のうちから選出する。
第８条　役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
2　会長の任期は、原則として連続3期までとする。
第９条　役員は、任期が満了した場合においても、原則として後任者が決定するまでは、引き続きその任務を行うものとする。

第6章　会　議

第10条　本会は、毎年1回、総会を開くものとする。ただし、役員会をもって総会に代えることができる。この場合においては、必要に応じて、その結果を会員に報告するものとする。
2　総会は、会長が招集する。
第11条　総会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一　事業計画
二　予算及び決算
三　役員の選出
四　会則の改廃
五　その他本会に関する重要な事項
第12条　総会の議事は、出席者の過半数の賛成で決する。
第13条　役員会は、必要に応じて、会長が招集する。
第14条　役員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一　総会に提出する議案
二　事業計画案
三　予算案及び決算案
四　会誌及び会員名簿の発行
五　その他本会に関する重要な事項
第15条　役員会は、役員の過半数（委任状を含む）の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛成で決する。

第7章　支　部

第16条　本会には、必要に応じて支部を置くことができる。
第17条　支部に関する事項は、本会に報告するものとする。
第18条　各支部の運営に関する規定は別に定め、当該支部において行う。

第8章　会　計

第19条　本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。
第20条　会費は、本部会費20,000円を準会員が終身会費として、入学手続時に納入するものとする。ただし、入学生のうち、本学出身者で、すでに正会員となっている場合は、これを免除する。
2　第16条による支部の支部会費は、当該支部の定めるところによる。
第21条　既納の会費は、返還しない。
第22条　決算は、監事による監査を受けて役員会の承認を得るものとする。
第23条　本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第9章　雑　則

第24条　この会則の改廃は、総会において出席者の過半数の賛成を得なければならない。

附　則
この会則は、平成8年1月20日から施行する。
この会則は、平成13年10月1日から施行する。
この会則は、平成16年1月1日から施行する。
この会則は、平成18年4月1日から施行する。
この会則は、平成20年7月1日から施行する。
この会則は、平成24年4月1日から施行する。
この会則は、平成30年7月1日から施行する。

平成30・31年度　睦眉会新役員

（2018 年 7 月 1 日～）

役　職		氏　名	所　属	勤　務　先
名誉会長		雄　西　智恵美	学科長	徳島大学医学部保健学科長（徳島大学大学院医歯薬学研究部）
会　長		橋　本　公　子	助	ウェルネス橋本助産所
副会長		長　谷　奈生己	看	徳島大学病院
		川　田　直　伸	放	徳島大学病院
		江　原　　隆	検	徳島県立中央病院
		森　内　洋　美	助	徳島大学病院
理　事	事務局	梅　野　真由美	検	
		冨　永　辰　也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	会　計	竹　林　桂　子	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	総　務	桑　村　由　美	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		富　永　正　英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		安　藝　健　作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		葉　久　真　理	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
理　事		佐　藤　ゆかり	看	徳島大学病院
		井　口　和　子		徳島大学病院
		米　田　好　美		徳島市民病院
		岩　野　朝　香		徳島大学病院
		飯　藤　大　和		徳島大学大学院医歯薬学研究部
		千　葉　進　一		徳島大学大学院医歯薬学研究部
		冨　澤　栄　子		四国大学看護学部
		天　野　雅　史	放	徳島大学病院
		山　田　健　二		徳島大学病院
		七　條　光　則		徳島県立中央病院
		佐　藤　雅　美	検	徳島大学病院
		岡　本　充　栄		徳島大学病院
		森　　さゆり		徳島大学病院
		上　田　美　香	助	徳島大学病院
監　事		中　道　玲　子	助	
		吉　田　知位子	検	徳島県立中央病院
アドバイザー		河　田　明　男	放	三船病院

編集後記

今回の会報誌を制作するにあたり、ご執筆いただいた皆様に心から感謝します。

さて、みなさん、徳島大学マスコットキャラクターをご存じですか？毎年恒例の院内阿波踊りにも参加してくれました。徳島大学で生まれ、住み着いているタヌキで、名前は「とくぽん」と言います。徳島大学が大好きで、学生と一緒に勉学に励む毎日を送っています。親しみやすく、愛くるしい表情で、徳島大学創立70周年記念事業や広報活動などで活躍しています。みなさん、是非、徳島大学ホームページにアクセスし、「とくぽん」に会いに来て下さい。きっと、癒やされますよ！

私も、睦眉会の役員、そして会報委員として活動することで、徳島大学の未来に貢献できればと思っています。次号も暖かく見守っていただけると嬉しいです。

睦眉会 会報委員　**長谷奈生己**

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報ならびに本学HPをご覧ください。
また、徳島大学同窓会連合会のFacebook（https://www.facebook.com/bizankai/）を開設しました。
徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね！」よろしくお願いします。

Face book

＜徳島大学総務部総務課＞
Tel：088-656-9979　Fax：088-656-7012　URL：http://www.tokushima-u.ac.jp/

1　研究クラスターの構築

徳島大学では、新たなイノベーションを創出する環境を作るため、研究分野を超えた複数の研究者からなる研究集団（研究クラスター）を組織し、支援する体制を構築しました。

平成29年度から開始し、平成30年度は「高齢がん患者とのコミュニケーション援助スキル獲得プログラムの開発」など、新たなクラスターが登録され、計155件となりました。

クラスターの登録後は、「重点」、「指定」、「選定」の各クラスターに選考し、効果的な研究費配分を行っています。

2　産業院の設置

平成30年4月、大学の研究成果を社会実装するために産業院を新たに設置し、平成30年8月27日、キックオフシンポジウムを開催しました。

産業院では、学内外の研究者が所属し研究を実施するのに加え、新規産業の創出に向けた事業の企画立案や産業院に所属する学内外の研究者の伴奏支援等の組織的支援を実施し、定めた計画や目標に向けて研究開発や大学発ベンチャー企業の設立等を推進します。新しい研究・成果を迅速に事業化・産業化することにより、世界の問題を地域から解決することを目指します。

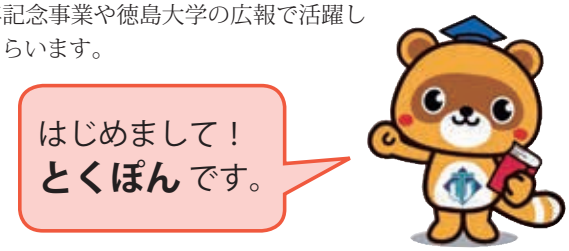
3　平成30年度徳島大学入学式を挙行しました

平成30年4月6日、アスティとくしまで平成30年度入学式を挙行し、合計1,920名の入学が許可されました。

入学式では、入学生を代表し、生物資源産業学部の松永愛結さんから「本学の教育方針に従って学則をまもり、学術の研究と人格の陶冶に努めることを誓います」と宣誓があり、野地学長から「偶然を味方にする能力が大発見をするためには必要です。」とのお祝いの言葉が贈られました。その後、在学生を代表して、理工学部の上谷政人さんから「大学の勉強や部活動など、まずは一芸を身につけることが大切です。」と歓迎の言葉がありました。

4　マスコットキャラクターが決定しました！

徳島大学マスコットキャラクターが、42件の応募作品の中から「とくぽん」に決定しました。今後は、徳島大学創立70周年記念事業や徳島大学の広報で活躍してもらいます。



徳島大学基金へのご協力のお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。

創立70周年記念事業基金
2019年に迎える創立70周年の記念事業へのご支援

教育・研究・社会貢献事業基金
プロジェクト事業や全学的な教育・研究、管理運営、環境整備などへのご支援

国際交流・グローバル化事業基金
留学、教員の海外派遣など、国際交流事業へのご支援

修学支援事業基金
授業料等の免除など、学生の修学へのご支援

学部等支援基金
各学部、先端酵素学研究所の教育・研究や管理運営、環境整備へのご支援

古本募金　https://www.furuhon-bokin.jp/tokushima-u/
不要になった本、CD、DVDを寄贈いただき、買取金額を基金に充てます

詳しくは徳島大学基金ホームページ（http://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/）をご覧ください。

■基金に関するお問合せ
徳島大学基金事務局
（担当：総務部総務課）
電話 088-656-9981

■申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ
徳島大学財務部資産管理課
電話 088-656-7037